

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2023年2月7日放送分・作並街道／八幡町】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 新シリーズ「四ツ谷用水を追う」の2回目は、国宝・大崎八幡宮の真っ赤な大鳥居からスタートです。目の前にいきなりコーナー32本目の辻標があります。「作並街道／八幡町」です。
- 作並街道は、愛子～熊ヶ根～作並といった宿を通り、関山峠を越えて最上地方にまで通じる街道で、「関山街道」とも呼ばれていました。愛子や熊ヶ根方面から、薪や炭などを運んでいました。八幡町のすぐ西側には、全盛期には最大9軒の茶屋があり、多くの人々で賑わったことが想像されます。運び込まれる薪炭に課税する「御仲下改所(おすあいどころ)」が、場所は特定できていないものの設置されていました。城下の北の出口＝堤町のお話にも出てきましたね。

■ 八幡町は、江戸時代初期の慶長年間に造営された大崎八幡宮の門前町として開かれました。実は参拝には不便(失礼!)な所で、城下の中心からは“へくり沢”と呼ばれる深い谷に隔てられた交通の難所でした。土橋通を北に迂回する必要がありましたが、明治時代以降、新道の建設により往来が便利になりました。

■ さて。私と木村さんはこのまま帰るわけにも行かず(1歩も動いていません!）、大崎八幡宮を参拝して行きます。参道下の太鼓橋で、旅のテーマである四ッ谷用水を越えますが、これが神域(結界)に入る前の『禊(みそぎ)』をする祓川になっていたようです。今は石でフタをされた暗渠なのですが…。そういえば大きな神社(伊勢神宮など)には、神域に入る前に川が流れていることがありますね。ない場合は、手水で手と口を清めて入ることになります。

■ 大崎八幡宮の歴史は千年以上にものぼり、そのルーツは平安時代初期の征夷大將軍・坂上田村麻呂による、東北遠征時の必勝祈願だとされています。当初は岩手県の水沢に祀ったといわれています。その後、宮城県北を支配した大崎氏が今の大崎市田尻辺りに遷宮したのを、伊達氏の支配下に入った後、仙台城下に造営されたのでした。



〈文・佐々木淳吾〉